

ない、これに比例割当法によって標本数を定め、標本児童・生徒の決定には二段抽出法を用いた。

検査は2月24日に小学校、25日中学校について、各出張所の指導担当者および研究所員はテスターとして、テスト全般の管理・運営にあたり、学校長の推薦したテスター補助員の手によって直接テストを実施した。

テストに表われた各小問の正答率・標準化した換算Tスコアは「診断的性格を帯びた福島県で標準化した学力検査の手引」一昭和34年4月上旬各小・中学校に配布一に示しておいた。

b 誤答分析を通した治療のあり方

昨年度の標準化のための学力検査結果から、系統的抽出法で約350の答案を抽出し反応分析を行った。

誤答については、これを各小問毎に類型化し、これをその小問にたいする理解事項、作問の観点などと対応させ、なぜこのような誤答をするに至ったか、これらの児童・生徒にたいしてはどのような指導一治療一を行うべきかについての考察を試みた。厳密にはこの考察についての検証を必要とするのであるが、これは今後の研究課題にし、本年度は上記考察の結果をとりあえずげけにし現場での活用に供することにした。

「国語」については「診断的性格を帯びた福島県で標準化した学力検査問題の報告書その二一国語学習の診断・治療——」に纏めて発表したが、その意図したものは次のようである。

各学年・学力検査問題の領域——読字・書字・語い・語法・文章読解——にしたがって

(1) どんなどころに、どのようなつまずきがあるか。

(2) そのつまずきは、どんなことが原因となっているか。

ということを細大もらさずとりあげ、さぐりあてた。つまずきは

(3) どうすれば、その障害を除けるかを究明しようとしたものである。

けれども「診断の終わったあとで治療がはじまるのではなく、診断そのものも治療指導の意味をもったものである」(平井昌夫)ためにとくに(2)のつまずきをみることに力を入れたつもりである。つまり治療指導の具体的な方法は、今後の現場での臨床的研究にゆだねたわけである。

各領域で特に強調した点をあげれば

・漢字の領域では、一字ごとの音形義の面からの学習と、文や語句との関連からの学習、

・語いでは、語いの機能、性質、内容に応じた学習、語い拡充と適用のための学習

・文章では、読みのテクニックや要旨を読みとる

学習などについてである。

これらを小問ごとの観点からみて、(3)の治療指導で考えなければならない問題点にふれたつもりである。

一応学年別にまとめてはあるが、系統性ということを考えているので、一つの領域を各学年を通して読まれることを希望する。

「算数・数学」は前述せるとく担当者が病気のため報告書は次年度にゆずることにした。

B 非行傾向児の早期発見に関する研究

非行少年の数は年々その数を増し、またその年齢は次第に低下しつつあって、これが防止に大きな関心がむけられている。こうした時代においてこれに応えるという目的から、広く用いている、性格、欲求、環境検査などの結果を、非行防止の観点からどのように解釈したらよいかを明らかにしようとするものである。

この研究にあたっては中学校に研究員を委嘱し、その研究員の属する学校の第1学年の生徒を教師の日常観察を通して、非行児またはその傾向を有するとみなされる順にしたがって順位づけたものについて、最初の1割に当る生徒を非行群に、これに続く1割を除いた残りの8割から、無作為に非行群と同じ人数だけ抽出してこれを正常群とした。

この両群に諸種の検査を実施して、これら検査に含まれる下位検査一項目一で、両群の間に有意の差のみられるものを選び、その項目への反応を正・負で表わすため Cutting point を決定した。これらの項目群についてラザースフェルトの潜在構造分析を行い、その結果において各項目の潜在クラスII一非行とみなされるクラス一に表われる確率の、潜在クラスI一正常とみなされるクラス一に表われる確率との割合の小さいもの程、非行に関係が深いと解釈する。またこれら項目相互の組合せ一反応型一では潜在クラスIIに属する人数の、潜在クラスIに属する人数の百分比の大きいもの程、非行への働きかけの大きい反応型と解釈して、これら項目、反応型に非行への影響力からみた順位づけを行った。

この分析結果において、各反応型に属する理論度数と実測度数との間に、かなりの一致がみられたにもかかわらず、潜在クラスIと正常群、潜在クラスIIと非行群との度数を比べるときには、ここに大きな相異がみられた。こうした現象は、正常群、非行群の設定方法と、あらかじめ2つの潜在構造を仮定するラザースフェルトの潜在構造分析によるものとも考えられる。そこで潜在構造の数を仮定しないグリーンの潜在構造分析を試みた。

グリーンの潜在構造分析の過程における Po の因子分析で、第2因子の剰余の度数分布は平均 = -0.00